

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月18日

【評価実施概要】

事業所番号	3170300531		
法人名	医療法人社団 日翔会		
事業所名	グループホーム つばき		
所在地	鳥取県倉吉市余戸谷町3051番地1 (電話) 0859-23-0051		
評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1YNT第10ビル207		
訪問調査日	平成20年2月14日	評価確定日	平成20年3月18日

【情報提供票より】(平成20年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 27 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14 人, 非常勤 人, 常勤換算 14

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての 1階 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	36,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.9 歳	最低	70 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	萬治医院、谷口歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設2周年を迎えようとするグループホームであり、同法人のグループホームが県内に他2ヶ所ある。倉吉市内の住宅地に位置しており、ホームの前には小川が流れ、環境の良い所である。併設のデイサービスには徒歩で通所されている利用者の方もおられる。ホームの中は明るく、利用者の方はゆっくりと安心した顔で暮らしておられる。職員のケアは自信に満ちていて、熱心であり、各々の悩みを抱えながらも利用者の方の笑顔の為に日々、努力して励んでおられるのがよく見える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での要改善点については、かなり改善されていた。広報誌の発行は年3回あり、余戸谷町や河原町に回覧してもらっている。災害訓練や地域との交流等にも改善が見られた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員で話し合われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議がきちんと2ヶ月に1回、定期的に開催されていて、市町村・自治会・家族代表の出席もあり、意見の交換が出来ており、地域との交流にも随分と役に立っている。また自治会行事の参加、小学校との交流も行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見等は、直接、職員に言われる事が多いが、代表者が2名決まった事で苦情や不満等もすいあげ易くなったとみられる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の小学校との交流がある。又、自治会の会長や公民館との交流もあり、交流の輪は広がりつつある。ボランティアの受け入れも行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念と3つの方針が作られている。ホームの見やすい所や案内・説明文に明示されている。入居時にも説明をされている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで唱和している。館内にも掲示がしており、理念の共有や実践にも取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣近所はもちろんの事、自治会の行事にも参加し、地域の小学校との交流もある。1周年記念祭で介護相談窓口を設け、地元との交流に努められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価共に理解され、昨年の評価は十分検討されて改善に努められている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催されており、地域との交流や意見の交換に活かされている。平成20年1月からは、家族代表を決め、代表者に出席してもらっている。		災害時には地域の人々の協力が不可欠なので、毎回、協力・依頼と理解について話し合いを行う事も必要と感じられる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社会福祉協議会や包括支援センターを通じ、市の担当者との話し合いは行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の家族への報告書は、担当職員の手書きのコメントと利用者の方の写真を添えて報告がなされている。金銭管理については、面会時に説明し、確認していただいて署名捺印をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情に対しては、受付表に記録・報告を行い、対応等を検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年の職員の異動は10回ほどあり、多かったという認識はある。何れもやむをえない理由によるが、申し送りや引継ぎには最善の努力をしている。	○	異動はなるべく少ないにこしたことはないが、利用者アンケートにも職員の方がよく変わるとのコメントがあり、紹介等にも色々な方法を検討していかれたらと思う。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画は立てられている。また法人にはヘルパー2級資格養成研修もある。介護支援専門員・介護福祉士等受験資格のある職員に対して勉強会を行い、受験対策研修についても機会確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会には入会しているが、他のグループホームとの交流までには至っていない。法人内の相互訪問・研修活動は活発に行われている。	○	今後、法人外とのグループホームとの相互交換や交流を計画していくとの事である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の面接や聞き取り、施設見学等もして頂いている。デイサービスの利用をされてからの入所のケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個人用の裁縫箱を持ち込み、裁縫を行おうとする利用者が針の糸通しに困って職員が代わりに行ったりなど、季節の行事の飾りや調理・洗濯・掃除・野菜作り等の各場面で利用者から教えて頂いたり、支えあう関係作りを築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で得た情報や、家族からの聞き取り等を参考に、意向や希望の把握に努められている。		一人ひとりの意向を元に個別の行事企画を立て、実現していきたいとのホーム側の意向があるので、ぜひ実現して欲しい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスノートがあり、カンファレンスで意見を出し合い、ケアプラン会議でケアプランに反映している。1ヶ月に1回モニタリングも実施されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用初期の方は2週間～1ヶ月に見直し、その後は毎月のモニタリングを行いながら、6ヶ月に1度見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスとうまく連携が取られ、デイサービスの看護師の協力も得ている。また包括支援センターとの連携も取れている。		柔軟な思考から柔軟な支援が生まれると考えるので、行き詰った時には元に戻って、どんな支援ができるか考えてみてはどうだろうか。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医となっている。受診・通院には職員が付き添って支援している。		往診可能な医者を確保することは必要かと思われる。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	チームカンファレンスを行い、出来る事への支援を検討している。状態の変化が見られた場合は、医師との連携を図っている。点滴の必要な方も、ホームで対応している。	○	状態の変化が見られた時に話し合うのではなく、出来たら入居時に利用者本人や家族の意向を把握し、職員全員で話し合いをしておく事が必要かと思われる。ターミナルケアについては、今後、一つの検討課題として欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々に合わせた言葉かけで対応されている。プライバシー保護に関しては、しっかり対応なされている。(例:入室、同意書、記録等の提出、利用者への言葉かけ)		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、利用者本位のペースを尊重し、希望にそって支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	半数の方は、会話を楽しみながら食事されていたが、残りの方は職員の声かけが少なく、無言のままの食事風景であった。味付けについて、率直に感想を述べる利用者の方もおられ、職員との関係作りがうまくいっていると感心した。茶碗拭き、盛り付け、テーブル拭き、調理の手伝いなどできることをされていた。		1階のユニットの利用者の方は、なかなか調理の手伝いは出来ないが、2階のユニットの利用者の方は料理の手伝ったりしておられた。1階ユニットの利用者の方も、茶碗拭き等は出来るのではと拝見した。利用者の方にも何か手伝ってもらう事は大切と思われる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は希望に合わせて、一人ひとりタイミングに合わせて支援されている。できない方は足浴からはじめて支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	大正琴・絵手紙・裁縫等、入所前の楽しみごとを続けてながら日々を過ごせるよう支援している。書道のうまい人もおられ、達筆の書が食堂に飾られていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前・午後の散歩、定期的買い物等、その日の希望にそって支援されている。又、季節ごとの行事も計画され、外出の支援のなされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の時間帯には鍵をかけず、自由に入出入り出来る様にしてある。(夜間は防犯上21時に戸締り)		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルがあり、避難訓練は年2回実施されている。今年は夜間訓練実施予定である。		2階のユニットに車椅子の利用者の方がおられる。夜勤帯での災害を考えると、地域の方の協力が不可欠と考えられる事から、日頃の連携がより大切と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量はきちんと把握され、記録もされていた。摂取量についても個々の状態に応じた提供の工夫がされている。		人工粉末だしを使用せず、昆布・鰹節でお出汁をとって、提供された昼食の吸い物はとてもおいしかった。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、何れも採光が十分あり、不快な音や匂いもなく、温度も適切であった。食堂には春らしい飾りも工夫してあった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入室させて頂いた3部屋は、いずれもすっきりと片付いていた。馴染みの物は少ないという印象を持った。	○	たまたま、物の少ない人の部屋を見せて頂いたという事もあるせいか、もう少し声かけをして、馴染みの物を持ち込まれても良いのではないかと考えられる。ベットに腰掛けて過ごすより椅子の方が良いのではないかと感じる。